

【ICT ツールを用いた実学講座】 箕面学園高等学校
＜授業展開例＞ 2020 年 10 月 10 日 「事例から考えるリスクマネジメント」

箕面学園高等学校にて、ICT ツールを用いて講師と生徒が非対面の形式で出前講座を行いました。
講師は機材のみが設置してある教室で授業を行い、リアルタイムで各教室へ投影する形式で実施されました。

「事例から考えるリスクマネジメント」

【授業概要】

実施日 : 2020 年 10 月 10 日 (土) 1 校時 8:50~9:35 (45 分)

実施校 : 箕面学園高等学校

授業者 : 生命保険文化センター 皆川 祐哉

学 年 : 1~3 学年

教 科 : 総合学習

ねらい : ・家庭生活に影響を及ぼすリスクの存在について知る

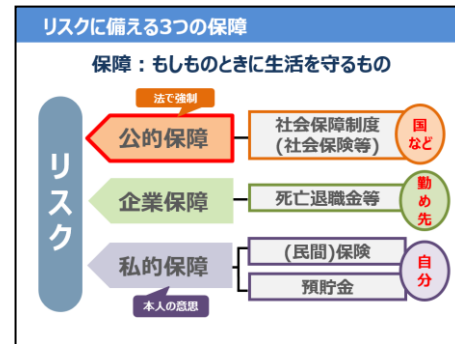
- ・リスクに備える方法として、公的保障・私的保障についてそれぞれの役割を学ぶ
- ・代表的な私的保障である、預貯金と民間保険について理解を深める



時間	学習形態	学習活動（授業の流れ）	指導上の留意点
0:00	一斉講義	導入 リスクへの備え （講師）人生には様々なリスクが存在しています。今日は事例を通してながらリスクに備える方法について学びましょう。 （資料 PPT） （講師）私たちの身の回りには「リスク」というものが存在します。身の回りにどんなリスクがあるか考えてみましょう。 （資料 PPT） （講師）リスクとは…ここでは、起きてほしくないことで、起きるとお金がかかることを言います。 例えば、交通事故や病気で入院。財布を無くしたりスマホを落として壊してしまったり、といったことも起きてほしくないことで、起きるとお金がかかること＝リスクと言えます。 （講師）では、こういったリスクは皆さんの身の回りで起きるでしょうか。財布を無くしたりスマホが壊れたり、ということはイメージがつくかもしれませんが、交通事故で大けがをしたり、病気で入院したりといったことはイメージがつかない人もいるかもしれません。 こうしたリスクが起きると何で困るでしょうか。例えば病気で入院した場合、身体に負担がかかると思います。長く入院すると精神的にも負担がかかるでしょう。それに加えて、経済的な負担もかかってきます。	（Q）身の回りにどんなリスクがあるか問いかける

2:30

(講師)



(資料 PPT)

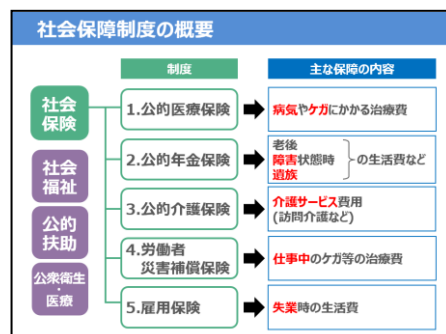
リスクが起きた時の経済的な負担の備えとして「3つの保障」というものがあります。公的保障、企業保障、私的保障の3つです。公的保障は国などが社会保険料や税金をもとに運営しており、国民とともに備える保障、企業保障は働いている人が勤め先から受けることができる保障、私的保障は自分で準備する保障です。

ここで大事になるのは3つの保障の関係性です。この3つ、どんな関係になっているかという、公的保障と企業保障で足りない部分を私的保障で補う、という関係性になっています。自分で準備したもので補う、という考え方です。

今日はこの先、リスクが発生した事例を見ていきますが、それでも公的保障と企業保障で足りない部分を私的保障で補う、という考え方が大事になるので、ぜひ意識しながら聞いてください。

では、事例を見ていく前に、国などが国民とともに備える公的保障の内容を見ていきます。公的保障の代表的なものに、社会保障制度というものがあります。この社会保障制度の中で、主にリスクが発生した時に守ってくれるのが社会保険です。

社会保険は5つの制度で成り立っています。



(資料 PPT)

5つの制度と社会保険料について簡単に説明。

・リスクに対する経済的な備えとして、公的保障、企業保障、私的保障（3つの保障）があることを説明する

・2章の事例からリスクについて考える際に必要となる知識であることを生徒に伝える

・社会保障制度のうち、「リスクへの備え」としては社会保険が中心になる

・詳細な説明は避け、社会保険から様々な保障を受

		(講師)	このようにいろいろな制度があって、リスクに応じて様々な支えがある、と押さえておいてください。	けられることを伝えられればよい
--	--	------	--	-----------------

<展開1> もしもリスクが起きてしまったら…① 15分

時間	学習形態	学習活動（授業の流れ）		指導上の留意点
5:00	一斉講義	(講師)	事例①「足の骨折で入院したら」 ここからはリスクが起きてしまった事例について、具体的にイメージしながら考えてみましょう。 (スノーボードをしていてケガをするアニメーション) (資料 PPT)	・ イラストを使ったアニメーションを通じてリスクが起きてしまった事例について具体的にイメージさせる
6:00	個人ワーク	(講師)	では、Aさんが骨折をしたら、どんなことにお金がかかるか考えてみましょう。 (資料 PPT)	・ 事例①では「どんなこと」にお金がかかるかを考えさせ、事例②でより詳しく時間をかけて考えさせる
		(生徒)	→生徒の進捗を見つつ	
		(講師)	入院や手術、薬にお金がかかりそうですね。入院している間の生活費も必要かもしれません。想像で良いので書いてみましょう。	

12:00	一斉講義	(生徒) →ある程度生徒の記入が終わったら (講師)	では必要になるお金を見ていきましょう。 この例では必要になるお金、かかったお金は入院・手術などの医療費、入院している間の食費等で合計約 184 万円でした。 次に入ってくるお金を見ていきましょう。 先ほど、リスクが発生した時、まず公的保障があると解説をしました。この例だと約 164 万円を支えてくれます。ケガや病気で入院した時には、「公的医療保険」があります。 ②入ってくるお金(事例①) ●公的医療保険（公的保障） 年齢による自己負担の割合 自己負担は原則3割(小学校入学後～70歳になるまで) 自己負担が高額な場合は「高額療養費制度」を活用できる 事例の場合、受けられる保障は合計約164万円 (資料 PPT)	・必要となる医療費等の金額を提示し、リスクが起きてしまったら一定の金額が必要になることを認識させる
14:00		(講師)	入院した時などに支えてくれる公的医療保険、どんなしくみか見ていきましょう。 公的医療保険のおかげで、医療の自己負担は原則 3 割となります。病院の窓口で「今日のお会計は 3,000 円です」と言われた場合、その治療には本来 10,000 円かかっている、7 割の 7,000 円は公的医療保険から保障が受けられます。 自己負担が高額な場合は「高額療養費制度」という制度があって、自己負担の金額をさらに軽減してくれます。 今回の事例の場合、高額療養費制度も活用して、受けられる保障は約 164 万円になります。 最後に自分で準備する必要があるお金について見ていきましょう。 ③自分で準備する必要があるお金(事例①) 「必要となるお金」から「入ってくるお金」を差し引いた金額が自分で「準備する必要があるお金」。 ①必要となるお金 かかった医療費 約176万円 その他 約8万円 合計 約184万円 ②入ってくるお金 公的保障 約164万円 合計 約164万円 = ③自分で準備する必要があるお金 約20万円 (資料 PPT)	・入ってくるお金として「公的医療保険」について説明する。3 割負担のほかに、高額療養費制度があることを紹介

		(講師)	「必要となるお金」から「入ってくるお金」を差し引いた金額が自分で「準備する必要があるお金」になります。 今回の事例だと「必要となるお金」約 184 万円から「入ってくるお金」約 164 万円を差し引いた、約 20 万円が自分で準備する必要があるお金になります。 公的保障で足りない部分を私的保障で補う、という考え方です。	・事例①を通じて公的保障と私的保障の補完関係を理解する
--	--	------	---	-----------------------------

<展開 2> もしもリスクが起きてしまったら…② 15 分

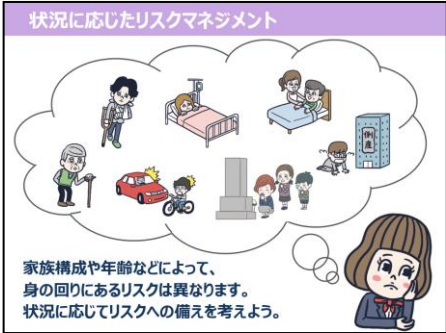
時間	学習形態	学習活動（授業の流れ）		指導上の留意点
20:00	一斉講義	(講師)	事例②「もしも亡くなってしまったら」 続いて亡くなってしまった例について見ていきましょう。 (亡くなってしまうアニメーション)  (資料 PPT)	
21:00	個人ワーク	(講師)	では、B さんが亡くなったら、「何」に「いくら」がかかるか考えてみましょう。 考えてみよう もしもBさんが亡くなってしまったら… 「何」に「いくら」がかかるか考えてみよう  生活費や教育費・住まいにかかるお金とかな？ お葬式のお金も必要？ 1,000万円くらいかかるのかな？ (資料 PPT)	・「何に」「いくら」かかるか考えさて、必要なお金を準備するにはどのような手段が考えられるか自分の意見をまとめさせる
		(生徒)	→生徒の進捗を見つつ	
		(講師)	残された家族の生活費や子どもの教育費・住まい等にお金がかかりそうですね。お葬式のお金も必要かもしれません。想像で良いので書いてみましょう。 →ある程度生徒の記入が終わったら	

			これを預貯金や民間保険などの手段で準備しておきます。 ここでも公的保障や企業保障で足りない部分を私的保障で補う、という考え方をします。 では、改めてリスクに備える「3つの保障」を確認しましょう。 リスクに備える3つの保障 保障：もしものときに生活を守るもの The diagram illustrates the three types of insurance that protect life in the event of a risk. It is structured as follows: Public Insurance (公的保障): Labeled 'Enforced by Law' (法で強制). It includes 'Social Security System (Social Insurance, etc.)' (社会保障制度(社会保険等)) and is associated with 'Country, etc.' (国など). Corporate Insurance (企業保障): Includes 'Death/Pension, etc.' (死亡退職金等) and is associated with 'Employer' (勤め先). Private Insurance (私的保障): Labeled 'By one's own initiative' (本人の意思). It includes '(Life) Insurance' ((民間)保険) and 'Savings' (預貯金), and is associated with 'Self' (自分). (資料 PPT) 公的保障と企業保障で足りない部分を私的保障で補う、という考え方が大切です。	・リスクに対して3つの保障があることを再度確認する ・公的保障と企業保障で不足する部分を私的保障で補完することを伝える
--	--	--	--	---

<展開 3> 自分で準備する「私的保障」 10 分

時間	学習形態	学習活動（授業の流れ）		指導上の留意点
35:00	一斉講義	(講師)	自分で準備する「私的保障」 ここからは自分で準備する「私的保障」について詳しく見ていきます。 「私的保障」の代表的な手段に預貯金と民間保険があります。預貯金は銀行などにお金を預けて、お金が必要になった時にお金を引き出して使います。 民間保険は民間の保険会社にお金を支払い、リスクが発生した時にお金を受け取ることができます。 それぞれどんな特徴、メリット、デメリットがあるか見てみましょう。	

		ださい。 保険のしくみ① 100人の部員がいるサッカーチーム 毎年5人の部員が骨折をしている 対策をしてもケガは減らない… 治療にかかる費用はひとり10,000円 (資料 PPT)	を認識させる
	(講師)	100 人の部員がいるサッカーチームがあります。このサッカーチーム、問題を抱えていて、毎年 5 人の部員が骨折をしてしまいます。 対策をしてもケガが減らず、毎年必ず 5 人骨折してしまいます。 骨折をすると治療にかかる費用はひとり 10,000 円です。 皆さんならこの骨折する 5 人になりたいでしょうか？	・ 保険のしくみに について単純化した 例で説明する
	(生徒)	→ (骨折する 5 人にはなりたくないという反応)	
	(講師)	そうですね。ケガをしてしまいますし、治療にお金がかかってしまいます。 そこで、キャプテンがこんな提案をしました。 「全員で治療にかかる費用を準備すればよいのでは？」 治療にかかる費用はひとり 10,000 円、それが 5 人分で、部活全体で 50,000 円となります。 この部活全体でかかる 50,000 円を部員全員、100 人で負担すると…ひとり年間 500 円支払えば 50,000 円集めることができます。骨折した部員はこのみんなで集めた 50,000 円の中から 10,000 円ずつ受け取り、治療費にあてることができます。あらかじめ 500 円支払っていたことで 10,000 円を受け取り、ケガをした時のお金の負担に備えることができました。 図で表すとこのようになります。 保険のしくみ③ ケガに備えるために…… それぞれが 出し合う費用 500円 × 100人 ¥10,000 ¥10,000 ¥10,000 ¥10,000 ¥10,000 骨折した5人は10,000円ずつ受け取り、治療費を支払える (資料 PPT)	

			500 円を部員全員、100 人で出し合い、50,000 円用意します。骨折した部員はこのみんなで集めた 50,000 円の中から 10,000 円ずつ受け取り、治療費を支払えます。 保険とはこのように、たくさんの人から少しずつお金を集め、何かリスクが起きた人のもとに集めたお金を届ける、といったしくみで成り立っています。	・全員が少しの負担でリスクに備えることができると補足する
		(講師)	また、民間保険は生命保険と損害保険に大別されます。生命保険は人、損害保険はモノを対象にした保険です。例えば「人」が亡くなった時や「人」が老後を迎えた時に保障してくれるのが生命保険です。 車で事故にあった…車というモノ、家が火事になった…家というモノ、モノを対象に保障してくれるのが損害保険です。	・民間の保険には「生命保険」と「損害保険」があり、それぞれの違いについて説明する
		(講師)	状況に応じたリスクマネジメント  (資料 PPT) このように保険はいろいろな状況に応じて様々な保障をしてくれます。そして、身の回りにはリスクや、必要な保障はその時の家族構成や年齢などによって異なります。 状況に応じてリスクへの備えを考えることが大切です。	・家族構成や年齢などによって必要な保障が異なるため、状況に応じてリスクへの備えを考える必要があることを説明する

<終末> まとめ 5分

時間	学習 形態	学習活動（授業の流れ）		指導上の 留意点
45:00	一斉講義		まとめ まとめ ①リスクに対して3つの保障手段で備えることができる。 ②公的保障と企業保障で不足する部分を私的保障で補う。 ③預貯金と保険にはそれぞれ特徴があり、使い分ける必要がある。 ④家族構成や年齢などによって、身の回りにあるリスクは異なります。状況に応じてリスクへの備えを考えよう。 (資料 PPT) (講師) 今日の授業のまとめです。 ①リスクに対しては公的保障、企業保障、私的保障の3つの保障手段で備えることができます。 ②大事なはこの3つの関係性で、公的保障と企業保障で足りない部分を私的保障で補う、という関係になっています。 ③私的保障の預貯金と民間保険にはそれぞれ特徴があり、生活に応じて選択していくことが重要です。 ④家族構成や年齢などによって、身の回りにあるリスクは異なります。状況に応じてリスクへの備えを考えていきましょう。 最後に、今日の授業のアンケートにご協力をお願いします。 「感じたこと・考えたこと・今後もっと調べたいこと」などを記入してください。 (生徒の感想抜粋) ・いつ何が起こるか分からないから、自分で考えて備えておくことが大切だと思った。 ・預貯金や民間保険で備えることが大切だとわかった。また、事故を起こさないように気をつけるなど、リスクを避けることも大切だと思った。 ・民間保険について、今までは親が入ってくれていたのあまり考えたことはなかったが、これからひとり立ちした時は自分で考える必要があるの、授業で話を聞いてよかった。	
	個人ふり かえり			